

公益社団法人全国大学保健管理協会
第3回保健看護委員会 議事要旨

2021/11/15

I. 開催日時 開催方法

2021年11月1日(月) 10時00分～11時15分 Web会議

II. 出席(8名) 敬称略

森正明(理事:慶應義塾大学) 佐藤希代巳(委員:小樽商科大学)
砂川昌子(副委員長:東京女子大学) 吉田智子(委員長:千葉大学)
森福織江(委員:山口大学) 福盛文恵(委員:九州工業大学) 計6名

欠席者 長沼敦子(委員:岩手大学) 楠田康子(委員:神戸大学)

III. 議事

1. 「看護職初任者向け講習会」の実施報告と今後について

新型コロナウイルスの影響により昨年より延期していた「看護職初任者向け講習会」を2021年9月10日に実施した。初めての試みのため、講習内容を予定の半分(学生職員のメンタルヘルス、保健室運営、外傷処置・救急対応)とし、関東甲信越地方部会保健看護分科会が試験的にオンラインで開催した。対象を大学保健管理従事3年未満としたが、予定数の100名に近い受講者があり、実施後のアンケートでは概ねよい評価を得ることができた。

第2回(次年度)は、「健康診断」などの項目を加えた完成版として実施することを考えており、実施方法についても、他大学の看護職と顔見知りになることが期待できる対面式での開催も含めて検討する。また、他の地域でも同様の講習会の実施を検討していく。

再来年以降は全国展開を目指す。全国展開での開催方法は、1日集中型か2日間のゆったり開催か、対面かオンライン開催か、ライブかオンデマンド配信かなど様々考えられる。例えば、①対面開催ができる地域、②面積が広大な北海道のようにオンライン開催が向いている地域、③講習内容の録画を利用して対面で情報交換を取り入れて実施できる地域などがあると思われる。対象を全国に拡大し非会員にも参加してもらうことになれば、参加費徴収についての検討も必要になるが、会員を増やすことにも繋がるのではないかと。

レベル別研修について、産業看護部会が行っている産業保健看護専門家の育成のように、中級者や上級者向けの講習会があるが、「メンタル」や「疾患別」などにフォーカスを当てて実施する方法も考えられる。当面は初任者向けとして実施していく。

現在、他の地方部会や保健看護分科会等が実施する講演を聴くことはできないが、今後、その垣根を越えて聴くことができるようになれば、看護職の勉強の機会が増えると考えられる。地方部会別に参加費や開催方法が異なるため簡単ではないが、各地区が連携でき抄録閲覧だけでも可能になればいいのではないかと。

2. 大学保健看護業務マニュアルの作成について

業務の標準化を大きな目標としていたが、まずは現時点でできることとして、大学保健管理に従事する看護職が業務を遂行する上で最低限知っておくべき事や目標などについてまとめたマニュアルを作成することにし、原案が出来上がった。本マニュアルは初任者向けとし、大学保健管理業務に従事したときに看護職の到達目標点などが見えるものとする。項目ごとに情報の検索先や地方部会の紹介なども含めた。できるだけコンパクトな冊子とし、文字として盛り込まなかった情報については、自身で調べられるよう検索サイトの紹介を入れた。項目・内容について委員会でさらに検討することになった。

完成後は非会員も含めて広く保健看護に従事する看護職に配布できるように準備を進めていく。大学保健管理協会 HP への掲載などについても検討し、多くの看護職が活用できるようにしたい。初任者講習会の内容もマニュアルに反映したいと考えている。協会の HP に掲載する場合や配布する場合は、ある程度完成した時点で協会（編集委員会など）のチェックが必要であろう。

3. 今後の予定

次年度の講習会については、2022年1月に開催する関東甲信越地方部会保健看護分科会運営委員会と相談し方向性を出す予定である。

マニュアルの内容の検討について12月中に委員会で意見交換する。

4. その他

初任者講習会の事後アンケートで、自身が会員か非会員なのかわからない人が多いことが分かったため、大学保健管理協会の事業や HP への掲載事項などについて、意図的に広報することが必要ではないか。同時に会員加入促進につながる。

以上